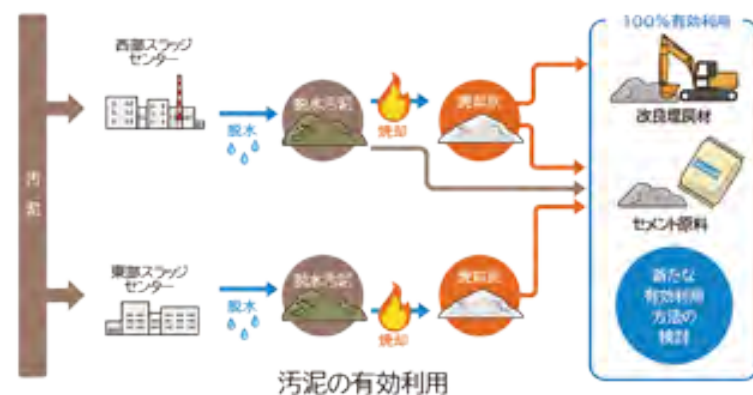


脱炭素・循環型社会への貢献③

下水汚泥の有効利用

脱水汚泥の焼却（p.4参照）によって発生した焼却灰は年間約1.5万トンにもおよびますが、土木工事の埋め戻しに利用したり、セメントの原料とすることで、全量を有効利用しています。今後も、新たな有効利用方法への展開など、安定的に汚泥を再利用できるように検討を進めていきます。



未利用空間を活用した太陽光発電

下水道施設の未利用空間に太陽光発電設備を導入することによって、電力会社から購入する電力の使用を低減し、温室効果ガス排出量を削減します。

現在は以下の2施設に太陽光発電設備を設置しています。

施設名	発電容量	供用開始
下水道科学館	10kW	平成25年3月
東部下水道管理センター	10kW	平成27年2月



東部下水管理センター 屋根置き太陽光

高度処理水を利用したせせらぎの回復

安春川は、屯田兵が湿地の農地化を目指し掘削した歴史的排水路ですが、都市化の進展に伴い宅地化が進み、水枯れ状態となっていました。ここに「先人の労苦をしのぶプロムナード」をテーマに、平成4年度から創成川水再生プラザの高度処理水を導水し、せせらぎを回復させるとともに、水路沿線の緑化や遊歩道の整備を行い、市民生活に安らぎや潤いを与える事業を実施しています。

また、平成10年度から屯田川・東屯田川・茨戸耕北川・ポプラ通り水路にも創成川水再生プラザの高度処理水を導水し、せせらぎを回復させています。



整備前



整備後

高度処理水を活用したせせらぎ回復事業(安春川)

コラム③

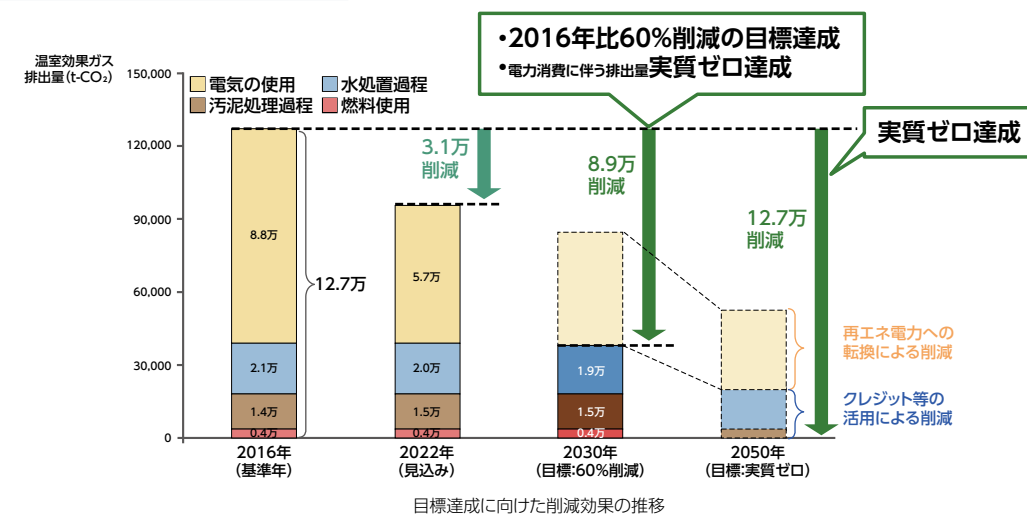
札幌市下水道脱炭素構想の概要 令和6年3月策定

札幌市では、下水道事業の脱炭素化を確実に進めるため、「札幌市下水道脱炭素構想」を策定し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

① 脱炭素に向けた方針

次の100年を見据え、下水道施設の再構築に合わせた取組やエネルギーの供給拠点として多様な分野等との連携を進めることで、脱炭素社会の形成に寄与します。

② 温室効果ガス削減効果(数値目標)



各目標年（2023年、2050年）における温室効果ガス削減効果

取組の方向性	取 組	削減効果[万t-CO ₂](※1)	
		2030年	2050年
Ⅰ 温室効果ガスの削減 (省エネ)	(1) 改築にあわせた取組	0.7	3.3
	(2) 維持管理における取組		
	(3) 下水道施設の再構築にあわせた抜本的な取組		
Ⅱ 下水道資源の活用 (創エネ・再エネ)	(1) 下水汚泥の処理過程で発生するエネルギーの活用	0.4	1.0
	(2) 下水熱の活用		
	(3) 未利用空間の活用		
Ⅲ 多様な分野・主体との連携	(1) 他分野への供給(下水道事業の削減効果の対象外)	4.7	5.4
	(2) 他分野からの供給		
	① し尿・浄化槽汚泥等の集約		
	② 再エネ電力への転換		
	③ クレジット等の活用		
(3) 市民・企業・学術機関との協力			
下水道事業独自の取組による温室効果ガス削減量(2016年基準) 【2016年～2022年の削減量3.1万t + Ⅰ + Ⅱ】(※2)		4.2	7.4
全ての取組による温室効果ガス削減量(2016年基準) 【2016年～2022年の削減量3.1万t + Ⅰ + Ⅱ + Ⅲ】(※2)		8.9	12.7

※1: 当該削減効果は一定の過程の下で試算したものであるため、今後の事業規模を確定するものではありません。

※2: 2016年から2022年までの取組による温室効果ガス削減量の実績3.1万t-CO₂を含めた削減量の累計です。
四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

札幌市 下水道脱炭素構想

検索

